

(南ア・日本との関係等)

2020年1月

◎概況等:

- ・南アはアフリカ諸国の中でも経済規模、産業構造、インフラ状況、所得レベル、金融制度、政治的安定性、証券市場、企業ガバナンスその他の面で アフリカでは先進国と言われているが 近年は低経済成長、労働力の質、若者の失業率、不法労働者・移民流入等の面で多くの課題を抱えているとされる。
- ・特に 前政権の残した負の遺産＝政治家、官僚、公団、公営企業等の汚職体質、非効率的運営、貧富の差等＝の解消、修正、改善に向けてラマポーザ大統領現政権が取り組んでいるが 既得権益グループ、抵抗勢力等の抵抗もあり時間がかかるものとされている。同大統領は諸外国からの投資呼び込みセミナー、Forum 等開催する等精力的に活動しており 民間経営者のトップ数人を 大統領直属の投資顧問団に任命している
- ・これ迄中国経済の成長の中で 中国が買い付ける資源・原材料などの価格が比較的高い水準にあり 輸出額もそれなりのレベルであったのが 最近の中国経済の低下に伴い資源商品価格が停滞・下落したことを受けて南ア・アフリカ諸国の外貨収入・輸出も大きく悪影響を受け それらが 経済成長停滞・雇用者数等にもマイナスに働いている事も大きい。
- ・それらを克服する為にも 国内で規制緩和、改革促進、新ビジネス創出、新興企業への支援策、中小企業の育成・促進その他が 求められている。
- ・新政権の改革促進、過去の腐敗政治・官僚組織改革・既得権益の廃絶等を通じ 新しい、革新的企業文化の創出、若者雇用促進を実現し 故マンデラ氏が唱えた レインボー・ネーションが実現されることが望まれる
- ・近年は中国に続いて成長が続いている インドの南ア・アフリカとの関係が 拡大していることは注目される。
- ・南アは 2020年AU(アフリカ同盟)の議長国でもありアフリカの底上げ、同盟強化等の面での 貢献が期待されている。特に南アの平和構築モデルの一つで故マンデラ大統領が実施したTRC(Truth and Reconciliation Committee=真実和解委員会・注御参照)方式は世界の各地で起きている紛争の解決モデルの一つとして注目されている。

更に南アはBRICSのメンバーとして定期的にロシア、中国、インド、ブラジルの首脳と会合を持っており或る意味でアフリカの代表的存在でもある。

- ・日本と南アは国連改革に取り組んでおり 各々地域の代表として常任理事国を目指しており 共通の Interest を共有する。2020 年は南アが非常任理事国を勤めるので日本としても連携を密にし協働を推進したいところ。
- ・又南アは 1990 年代初めに核放棄を宣言し 一方日本は唯一の核被爆国として世界の核廃絶に向けて共通の利害を有する
- ・その様な状況下で 2019 年の日本でのラグビーWC で 黒人選手をキャプテンとする南ア スプリングボックチームが優勝したことは 南アにとり多民族統合の象徴として国民的統合が促進されることが期待される 特に ラマポーザ大統領が 2019 年に日本を 3 度も訪問(G-20、TICAD、ラグビーWC)したことは 意義があり今後共両国の関係が 強化されることが期待される。

◎注釈:TRC:マンデラ大統領が新政権の大統領に就任した際 民族間の過去の争い・闘争等を克服して国民が新しいレインボーネーション建設に向けて再出発する際に設置した委員会・法廷で 国民が過去犯した政治的暴力・武力・犯罪等を法廷で告白しそれを歴史として記録する共に 告白した人々をお互いが許し 和解するとゆう委員会・法廷で マンデラ氏自身も法廷で告白している。これらは世界各地で起きている争い解決の 一つのモデルになると言われている。

◎貿易関係

111)南アの輸出国別金額(2018年)

- | | | | |
|--------|-----------------|--------|----------------------------------|
| 1)中国: | 10,191億円 | 5)日本: | 5,341億円
(自動車、合金鉄、プラチナ他) |
| 2)ドイツ: | 8,446億円(FTA 有り) | 6)インド: | 5,280億円(石炭
鉄鉱石、合金鉄プラチナ、金、ダイヤ) |
| 3)米国: | 7,558億円(AGOA) | | |
| 4)英国: | 5,760億円(FTA 有り) | | |

222)南アの輸入国別金額(2018年)

- | | | | |
|------------|----------|---------------|---------------------------------------|
| 1)中国: | 20,385億円 | 5)インド: | 4,591億円(自動車、
トラック、医薬品、化学品、電気・機械製品) |
| 2)ドイツ: | 10,949億円 | 6)ナイジェリア(石油): | 4,576億円 |
| 3)米国: | 6,582億円 | 7)英国: | 3,713億円 |
| 4)サウジ:(石油) | 6,454億円 | 8)タイ: | 3,463億円 |
| | | 9)日本: | 3,406億円
(自動車部品、機械・発電類) |

333) 貿易総額順位(2018年)

1) 中国:	30,576億円	5) 英国:	9,473億円
2) ドイツ:	19,395億円	6) 日本:	8747億円
3) 米国:	14,140億円	7) サウジ:	6,454億円
4) インド:	9,871億円	8) ナイジェリア:	4,576億円

●中国の貿易量は日本の約3.5倍と大差

●南アー日本はインドより少なく EPA, FTAを締結し拡大していく事が望まれる
(2000年頃はドイツ、英国、米国、日本、等の順位)

◎同時に AfCFTA 発効を睨み南アとのFTA・EPAを締結後 他のアフリカ諸外国との貿易拡大・投資拡大を指向すべきと思われる

●注釈:

○インド関連:

あ) インドの石炭輸入は(2018年合計約 2.2億トン)

・インドネシア	1.033億トン	・米国	1571万トン
		・ロシア	400
・豪州	5000万トン	・モザンビク	685
・南ア	3850万トン(南ア輸出の43%)		(近年大幅増・今後増大)

い) インドの鉄鉱石輸入: 2014年約1600万トンー内約540万トン(42%相
が南アから一主として
DR用塊鉱石?)

2017~2018年: 2000万トンレベル(?)

○南ア関連: 南アの鉄鉱石輸出:

* 2016年輸出総計 約6700万トン(総生産量は7800万トン)

・内 中国向け:	約4200万トン	(62%)
インド :	約540	(8%)
日本 :	約442	(6.6%)
韓国 :	約380	(5.6%)

○南アの石炭輸出:

* 2016年頃の輸出合計は 約7830万トン

その内	・インド向け	3600万トン
	・中国	1400
	・トルコ	454
	・オランダ	270
	・台湾	130
	・日本	15(以前は 4-500万トン)

◎投融資関係:

* 南アへの国別投資・融資残高:(2018年):単位 億円

	直接投資	間接投資	総計
1)米国	11664億円	144711	163962億円
2)英国	52794	39528	132858
3)ベルギー	17262	46134	63846
4)オランダ	34893	6759	42894
5)中国(含香港)	9243	1548	19192
6)ルクセンブルグ	3645	12888	18018
7)日本	10278	5310	16155
8)ドイツ	8136	1305	13986

9)フランス、スイス、豪州、シンガポ、インドが続く:

◎但しインドは近年急拡大中

* 国別近年の投資動向等:

1)米国:直接投資、間接投資共に ほぼ横這い・合計でも横這い

2)英国:直接投資(+13%)、間接投資共に漸増・合計で7%増加

◎3)ベルギー: 直接投資が減少、間接投資は横這い・合計で微減

◎4)オランダ:直接投資微増、間接投資は横這い・合計でほぼ横這い

5)中国: 直接投資、間接投資共に漸増・合計で漸増

◎6)ルクセン:直接投資・間接投資共に微減・合計で微減

7)日本: 直接投資・約50%増、間接投資・倍増・合計で23%増加

8)ドイツ:直接投資、間接投資共に大幅減少・合計で約30%減少

9)フランス:直接投資、間接投資共に微増・合計で微増

10)豪州: 直接投資増加、間接投資微減・合計で微増

11)インド:直接投資微増、間接投資大幅増加・合計3474億円に大幅増加

◎ルクセンベルグ、ベルギー、オランダ、スイス等は本国企業によるよりも第三国企業が税制、為替管理その他の理由から 同国に持ち株会社を作り そこから南ア他に投融資している場合が結構あると思われるので要注意。